一般社団法人雄勝花物語［宮城県石巻市］

雄勝花物語による低平地利活用及び交流人口拡大プロジェクト～

取組背景・地域課題

- 石巻市雄勝町は震災によって中心部が壊滅し、震災前約4,000人であった人口が約1,500人まで減少（平成30年5月時点）。災害危険区域に指定された低平地の利活用が課題である。
- 雄勝花物語は低平地で「雄勝ローズファクトリーガーデン」を運営しているが、継続的に事業を続け、**交流人口の拡大による雄勝町の再生**につなげるため、花と緑を活用した**収益事業の安定化**と**新たな土地利活用計画の策定**に取り組むこととなった。

取組体制

雄勝花物語 ⇔ 連携先
- 石巻市雄勝総合支所
- （公社）モリウミアス
- ranran ficicant 等

支援者
- （株）陽と人
- 花と緑の力で3.11プロジェクトみやぎ委員会、千葉大学秋田研究室

取組の目的と内容

低平地を利活用している雄勝花物語の収益事業を安定化するとともに、新たな低平地利活用計画の策定を通じた各団体の連携と交流人口の増加を目指す

1 ガーデンの持続的運営に向けた収益事業の立ち上げ

- 収益事業の立ち上げ・安定化に向け、ガーデンでの滞在プランを検討。「人とつながり希望を紡ぐ」という雄勝花物語の理念を中心に据え、カフェや物販、体験プログラム等を組み合わせた多様なニーズを満たす滞在プランを具現化する。
- 地域内外の連携体制構築を図りつつプラン作りを進める。

2 ガーデン周辺低平地の利活用案の立案

- 既に策定されている「雄勝ガーデンパーク構想」を着実に「実行」すべく、地域内外の関係団体間で実現に向けたワークショップを５回開催。
- ワークショップでは、ガーデン周辺の低平地利活用計画を策定するとともに、計画「実行」のための関係団体間での連携体制を構築する。

取組のポイント

無理なく持続的に運営できる仕組みを！

雄勝花物語の事業の考え方整理

- 事業全体を整理した上で、雄勝花物語が大事にしている価値観を中心に据え、単に収益事業を展開するのではなく無理なく持続的に運営できるよう雄勝花物語に適した収益・寄付の仕組みを構築できるようにした。
- 滞在プランを検討する際は「ガーデンに来たら何がほしいか」という来訪者のニーズと「自分たちが何をやりたいか」というガーデン側のニーズを両方踏まえて設計していくようにした。

低平地の利活用に係る計画イメージ

計画の内容は担い手目線で！

- 計画の策定はトップダウンで行うと絵に描いた餅になってしまう。せっかく計画を策定してもそのような実現可能性の乏しい計画では意味がない。そこで、低平地の利活用に係る計画の策定に際しては、実際の地域の担い手ができること・やりたいことを明確にし、ボトムアップ型であくまでも担い手が実行できる内容にしていった。

取組の主な成果

- **雄勝花物語のコンセプトを体現した滞在プランを具現化**できた。具体的には、大事にする価値観「命の大切さ」、「人とつながり希望を紡ぐ」、「みんなとつくるお庭」という３つを体感できるプログラムをつくった。
- 低平地の利活用に関して話し合うワークショップを５回開催し、**担い手による実行可能な計画が完成**した。また、低平地の利活用も含め雄勝の**過去・現在・未来をわかりやすく地域内外に伝えていく動画も完成**し、動画をきっかけとした新たな繋がりも生まれることとなった。

支援対象団体担当者からの声

> 本事業によって本団体の価値観である「命の大切さ」の発信と「人とつながり希望を紡ぐ」復興思想に基づいて、「いのちの授業」「ガーデンづくり」「花とハーブの作品づくり」「ハーブ料理づくり」という「学ぶ・つくる・食べる」の体験プログラムを完成させたことは大きな成果であった。また低平地の利活用では、石巻市役所雄勝総合支所の参加の下、「雄勝ガーデンパーク構想」を具体化するために、担い手を明確にした実現可能な地図落としができたことは大きな前進であった。